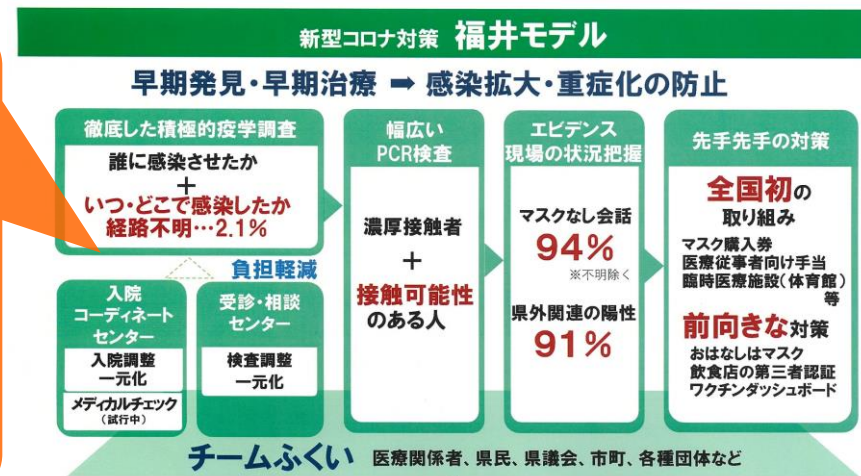


資料1 濃厚接触者以外にも幅広く検査する「福井モデル」

延べ重症者数は全国の10分の1

福井県知事
「接触可能性
がある人まで
積極的に検査
を広げること
で感染拡大や
重症化を防止
できた」



第5期の分析 ①感染者数・入院日数等の推移

・感染者数・系統数は増加したが、入院日数は短縮、重症化率は低下

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
感染の状況	R2.3.1~2.6.30	R2.7.1~2.9.30	R2.10.1~3.2.28	R3.3.1~3.7.19	R3.7.20~3.10.14
感染者数計	122	122	301	876	1,676
新規系統数計	14	24	82	172	396
1週間感染者数(最大)	51	64	62	144	294
クラスター一件数計	6	4	9	11	32
感染経路不明割合	6.5%	4.1%	3.3%	1.9%	1.5%
入院の状況					
平均入院日数	21.6	13.5	12.0	11.0	9.4
病床利用率(最大)	70.9% (78/110床)	35.7% (68/190床)	30.2% (77/255床)	63.4% (168/265床)	55.2% (223/404床)
ICU利用率(最大)	88.9% (8/9床)	20.8% (5/24床)	16.7% (4/24床)	12.5% (3/24床)	8.3% (2/24床)
宿泊療養利用率(最大)	50.0% (10/20床)	3.4% (5/146床)	3.4% (5/146床)	16.4% (24/146床)	69.2% (101/146床)
重症者数計(重症化率)	23(18.9%)	9(7.4%)	17(5.6%)	9(1.0%)	6(0.4%)
死亡者数計(死亡率)	8(6.6%)	3(2.5%)	14(4.8%)	11(1.3%)	1(0.1%)

○感染伝播

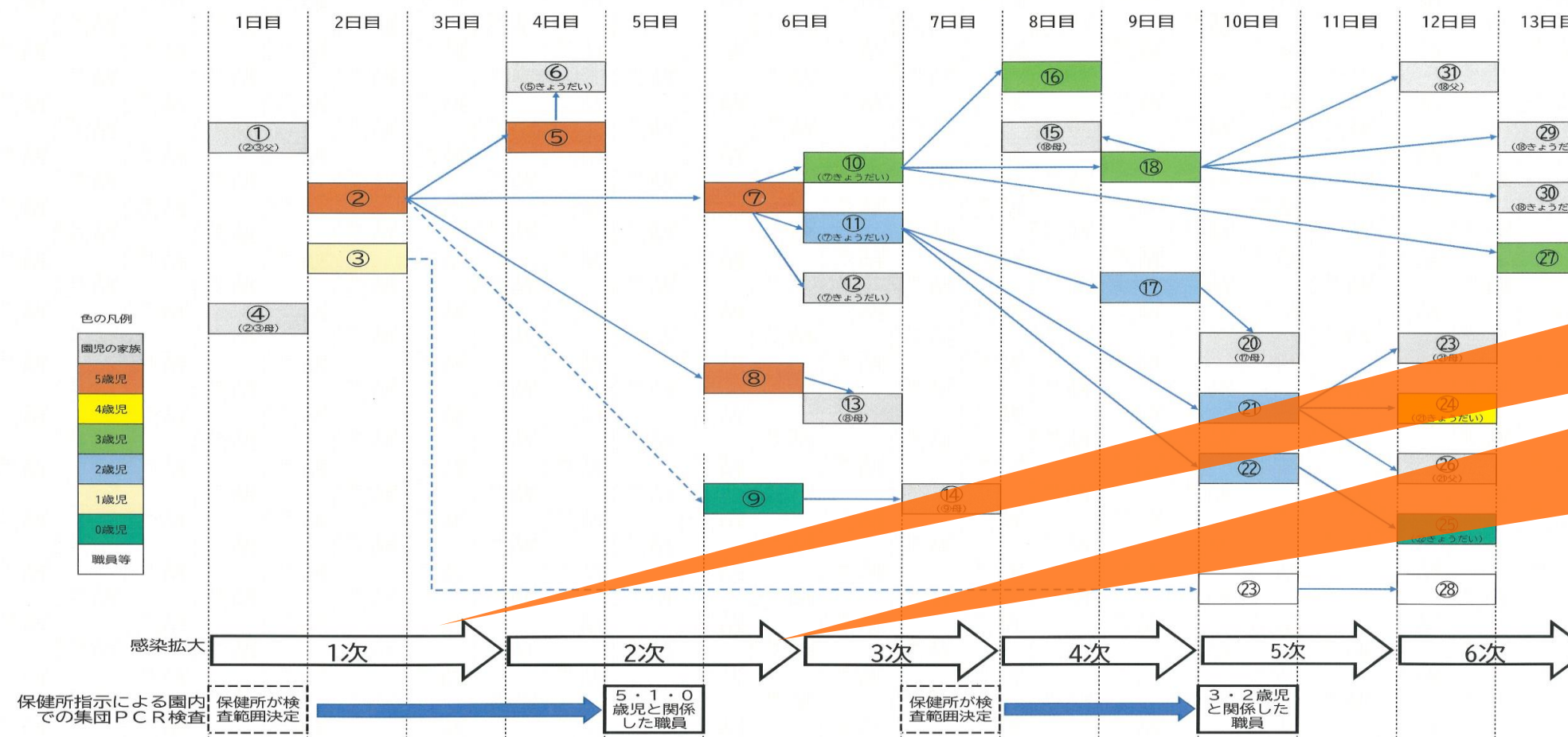
- ・他者への感染事例は、第4期が29.0%、第5期が27.4%
(家庭内感染のみの事例を除くと、第4期が16.4%、第5期が14.5%)
- ・家庭内感染を除いた感染者からは、第4期では平均3.1人、第5期では平均3.7人への感染が認められ、増加傾向
- ・積極的疫学調査による早期の濃厚接触者の特定や接触者も含めた広い範囲のPCR検査の実施などにより、大部分は2次感染までで収束

※第4期は172系統の感染事例のうち144例、第5期は396系統の感染事例のうち330例が2次感染まで

	家族以外にも移した			家族のみに移した			他者への感染なし		
	人数	感染させた数	年齢	人数	感染させた数	年齢	人数	年齢	性別
第5期	243名 (14.5%)	平均3.7人 (1-39人)	平均34.9歳	215名 (12.8%)	平均1.7人 (1-5人)	平均33.5歳	男:157名 女:86名	1,218名 (72.7%)	平均36.4歳 男:686名 女:532名
第4期	144名 (16.4%)	平均3.1人 (1-31人)	平均41.7歳	110名 (12.6%)	平均1.8人 (1-7人)	平均39.6歳	男:77名 女:67名	622名 (71.0%)	平均40.3歳 男:328名 女:294名
第3期	27名 (9.0%)	平均2.7人 (1-9人)	平均48.4歳	33名 (11.0%)	平均1.5人 (1-4人)	平均52.0歳	男:13名 女:14名	241名 (80.0%)	平均47.6歳 男:114名 女:127名
第2期	15名 (12.3%)	平均2.8人 (1-7人)	平均70.3歳	15名 (12.3%)	平均1.6人 (1-3人)	平均59.1歳	男:10名 女:5名	92名 (75.4%)	平均57.9歳 男:44名 女:48名
第1期	27名 (22.1%)	平均2.5人 (1-7人)	平均56.2歳	16名 (13.1%)	平均1.4人 (1-3人)	平均59.5歳	男:18名 女:9名	79名 (64.8%)	平均52.3歳 男:50名 女:29名

【2021年11月11日県知事記者会見資料から】

資料2 大規模な検査は必要 ～保育施設の事例から



この段階で全園児・全職員の検査をしておけば、その後の感染拡大を防げた可能性がある

【施設聞き取りをもとに竹永作成】

資料3 苫田ダム受水のムダ遣い

(3) 施設能力

(単位：m³/日)

浄水場名	施設能力 (令和3年3月末現在)
三野浄水場	191,000
旭東浄水場	52,000
山浦浄水場	20,000
牟佐浄水場	5,000
矢原浄水場	5,800
紙工浄水場	500
宇垣浄水場	500
川口浄水場	4,100
大内浄水場	17,575
岡山県広域水道企業団から受水	43,700
岡山県南部水道企業団から受水	4,400
計	344,575

浄水場の
能力合計

296,475 t

一日の最大配水量 27万7,809 t
浄水場の能力計 29万6,475 t県広域水道企業団からの受水は4万
3,700 tだが、10万 t 分支払っている

(5) 事業の推移

項目			
行政区域内世帯数		334,876	
行政区域内人口		706,775	
給水区域内世帯数		334,757	
給水区域内人口	(人)	707,161	706,591
給水世帯数	(世帯)	327,316	334,318
給水人口	(人)	706,232	705,719
水道普及率	(%)	99.8	99.9
(給水普及率)	(%)	(99.9)	(99.9)
給水件数	(件)	307,582	311,259
年間配水量	(m³)	89,277,885	88,857,925
年間1日最大配水量	(m³)	7月24日 273,298	8月1日 264,190
年間1日平均配水量	(m³)	244,597	242,781
年間有収水量	(m³)	80,804,514	80,282,656
有収率	(%)	90.5	90.3
配水管総延長	(m)	4,349,346	4,356,312
消火栓数	(個)	14,602	14,585
職員数	(人)	329(60)	328(60)
供給単価	(円)	156.06	156.04
給水原価	(円)	144.66	147.21

(注) 1. 給水件数は、岡山地区、瀬崎地区は2月分及び3月分、御津地区、瀬戸地区、建部地区は、3月分の調定件数の合計

2. 職員数は管理者を含む。()内の数字は、資本勘定の職員数である。

【2021年度市政のしおりから】

資料4 総社市のひきこもり支援

①ひきこもり支援センター「ワンタッチ」の開設

専門の相談員（社会福祉士）による訪問・電話・メールでの相談対応

総社市社会福祉協議会では、ひきこもり支援センターのほか、生活困窮者支援センター、障がい者基幹相談支援センターなど横断的な総合相談支援体制（精神保健福祉士による応援等）を構築。

※実績は平成29年4月～令和3年6月の合計



○実相談者数 354人 ※男性：72%、女性：28%

(10代：79人、20代：68人、30代：72人、40代：61人、50代：30人、60代以上：18人)

- ・本人接触による相談 132件（対面114件、電話13件、メール5件）
- ・家族接触のみによる相談 118件
- ・民生委員からの相談 38件

○延べ相談件数 14,907件

- ・訪問 3,003件
- ・来所 6,086件
- ・電話 4,951件
- ・e-mailなど 867件

○社会参加実人数 57人

- ・定期的居場所利用（12人）
- ・ボランティア体験（介護施設6人、地域の農園1人）
- ・就労（19人）短期就労（6人）福祉的就労（5人）

このほか、地区社協行事への参加、進学、復学など

ひきこもり支援の具体的な事例

ケース1：50代後半の男性

【支援開始前の状況】

- ・ 離職・転職を繰り返し、対人関係から退職。約4年間、ひきこもり状態。

【支援内容】

- ・ センター職員が週1回の自宅訪問を繰り返して相談支援を実施。
- ・ 少しずつ、センター職員らと一緒に福祉施設のボランティア活動を体験。

【結果】

- ・ その後、センター職員も同行しながら求職活動を行い、就職。
- ・ 今では地域の清掃活動やお祭りにも参加。

ケース2：20代後半の男性

【支援開始前の状況】

- ・ 中学時代にいじめにあって不登校となる。その後、約15年間、ひきこもり状態。

【支援内容】

- ・ 多重問題を抱えた家庭環境で、市・社協・保健所が連携して自宅訪問により支援。
- ・ 特に、経済的な問題が大きく、ひきこもり支援センターと生活困窮支援センターが連携。

【結果】

- ・ 経済的な安定を図るため、生活保護の受給を開始。
- ・ ひきこもり支援の居場所「ほっとタッチ」に定期的に来所。
- ・ さらに、本人と同様にひきこもり状態にあった兄弟も、一緒に来所できるようになってきた。

②常設の居場所「ほっとタッチ」

市役所・社会福祉協議会のそばの一軒家を借り上げ、
ひきこもりの支援対象者が訪れる常設の「居場所」を開



専門職、ひきこもりサポーターが寄り添い、社会参加に向けて少しずつ支援

「ひきこもりサポーター」の養成

- 市民を対象とした「ひきこもりサポーター」の養成講座を実施
- 居場所「ほっとタッチ」等での支援は、専門職に加え、「ひきこもりサポーター」の力をかりて実施（R3.6末の登録者数75人）



6

【「岡山県総社市におけるひきこもり支援について」から】

資料5 介護保険の負担増 負担可能なのか

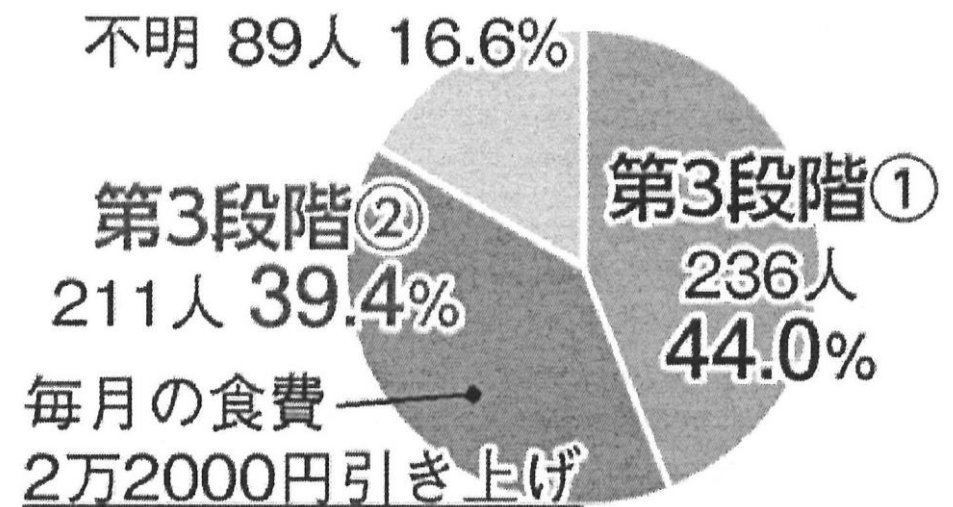
	特養 (120床)	小規模特養 (29床)	計
預貯金要件引き下げで非該当に (月2.2万円増)	11	5	16
第2段階から非該当に (月6万円増)	1	0	1
第3段階から非該当に (月4万円増)	10	5	15
第3段階から第2段階に (月2.1万円増)	24	8	32

【施設からの聞き取りをもとに竹永作成】

資料6 負担増の影響は4割の方に

図2 施設入所者 食費2万2000円増が4割も

(全日本民医連「補足給付の見直しに関するアンケート調査」、第3段階における割合)

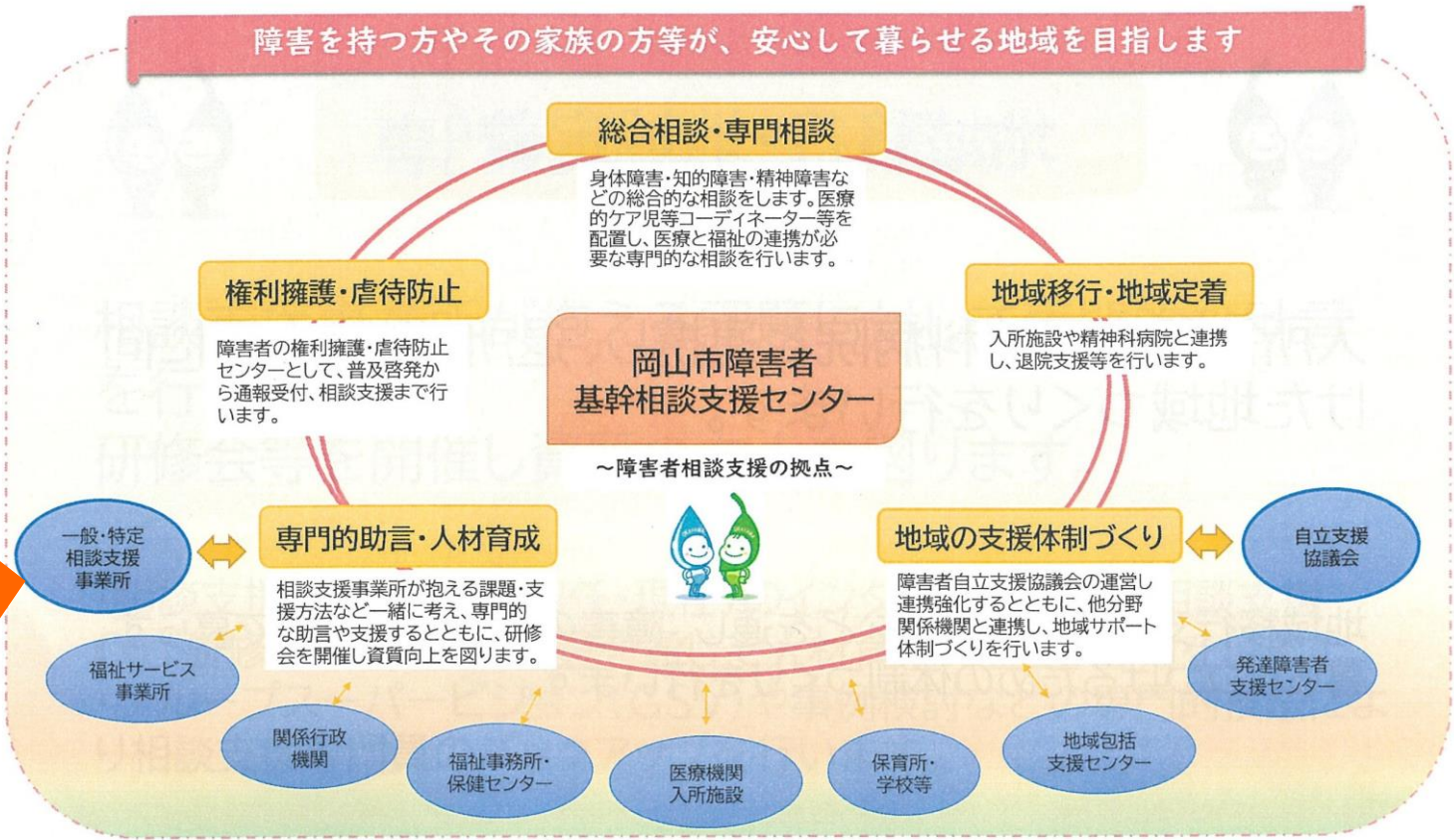


※今年4月1日現在の収入にもとづく。民医連外を含む17施設(特養・老健など)が回答。

【民医連新聞 2021.7.20 付から】

資料7 岡山市障害者基幹相談支援センターの役割、連携

特にここを拡充すべき。
同行支援をはじめ、生涯切れ目ない支援を。



【センター資料から】

資料8 県内自治体の米価下落支援策

米価下落に対する自治体の支援策一覧（11月末現在）

自治体名	補助内容	予算額など
奈義町	1俵 1,000円	9月補正予算 2,800万円
勝央町	1俵 2,000円（主食米） 同 800円（もち米）	9月補正予算 7,074万円
津山市	1俵 1,300円	9月補正予算 1億1,721万円 認定農業者ら（1,168戸）
西栗倉村	10㍓ 8,500円	9月補正予算 499万円
総社市	1俵 4,000円 10㍓当たり2俵（アケボノは1俵）が上限	10月補正予算 4,400万円 JAを通じて市が支援金を上乗せして買い取り、ふるさと納税の返礼品に活用。
新庄村	10㍓ 2,000円	10月補正予算 127万円
備前市	1俵 1,500～2,000円（主食米） 同 500円（もち米）	10月補正予算 1,603万円
倉敷市	10㍓ 10,000円 （最大20万円）	11月補正予算で提案 1億4,100万円 作付30㍓以上の販売農家（約2,200経営体）
真庭市	1俵 1,300円	12月補正予算で提案 1億3,102万円
美作市	1俵 1,300円	12月補正予算で提案 1億493万円

各市町は、国交付金と一般財源で対応。

【日本共産党岡山県委員会まとめ】